

科目区分	【博士】言語科学専攻科目						
科目名	言語科学研究演習Ⅱ						
担当教員	西垣内 泰介						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～3	単位数	4.0
授業のテーマ	文法理論の特定的研究						
授業の概要	最近の文法理論で注目されているWh構文に関わる諸現象の諸相を関連する最近の著作を検討しながら考えていきたい。特に様々な言語におけるスコープと省略現象、イントネーションとの関わりを中心に新しい見方を探っていきたい。						
到達目標	授業で問題を提起し自主的に研究ができることを目指しディスカッションを行う。						
授業計画	第1回 日英語のWH構文 (1) 第2回 日英語のWH構文 (2) 第3回 日英語のWH構文 (3) 第4回 日英語のWH構文 (4) 第5回 日英語のWH構文 (5) 第6回 分裂文の論理構造 (1) 第7回 分裂文の論理構造 (2) 第8回 分裂文の論理構造 (3) 第9回 分裂文の論理構造 (4) 第10回 分裂文の論理構造 (5) 第11回 イントネーションとスコープ (1) 第12回 イントネーションとスコープ (2) 第13回 イントネーションとスコープ (3) 第14回 概観 (1) 第15回 概観 (2) 第16回 WH構文と省略現象 (1) 第17回 WH構文と省略現象 (2) 第18回 WH構文と省略現象 (3) 第19回 WH構文と省略現象 (4) 第20回 局所性との関係を重点的に (1) 第21回 局所性との関係を重点的に (2) 第22回 局所性との関係を重点的に (3) 第23回 局所性との関係を重点的に (4) 第24回 イントネーションとの関係 (1) 第25回 イントネーションとの関係 (2) 第26回 イントネーションとの関係 (3) 第27回 イントネーションとスコープ (1) 第28回 イントネーションとスコープ (2) 第29回 イントネーションとスコープ (3) 第30回 概観						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業で扱っている問題を自主的に考え、関連する文献に注意をはらう。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	履修者は各自の現在の関心領域について発表する。評価はその内容と学期末のレポートによる。						
教科書	教室で指示する。						

参考書	
-----	--

科目区分	【博士】言語科学専攻科目						
科目名	言語科学研究演習III						
担当教員	郡司 隆男						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜2	配当学年	1～3	単位数	4.0
授業のテーマ	言語の形式化、特に意味に関する問題の形式的な取り扱い。						
授業の概要	意味論・言語情報の機械処理に関する最近の話題から題材をとり、文法の形式化とその表示の関係、人間の情報処理行動に関するモデル化とその効率的な処理などの問題について考察する。 それに基づき、言語を形式的な手段によって分析し、論理的に考察できるようになることを目的とする。						
到達目標	(1) 言語学的に適切なトピックを選んで設定することができる。 (2) 自分の選んだトピックについて短い論文を書くことができる。 (3) 自分の考察をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。 (4) 研究の方向付けについて自主的に考えることができる。						
授業計画	第1回：導入、今後の方針 個々の学生のテーマの決定 第2回：担当者より提供するトピックのディスカッション 第3回～第14回：学生の関心のあるテーマについてのディスカッション (1)～(12) 第15回 前期のまとめ 第16回～第29回：学生の関心のあるテーマについてのディスカッション (13)～(26) 第30回 年度のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回発表担当者を決めるので、授業前に十分に準備して、資料を用意して他の受講者に配布しておくこと。						
授業方法	セミナー形式。						
評価基準と評価方法	クラスでの発表、レポートなどによる。						
教科書	授業中に指示する。						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	【博士】言語科学専攻科目						
科目名	言語科学研究演習Ⅳ						
担当教員	松田 謙次郎						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～3	単位数	4.0
授業のテーマ	社会言語学・変異理論関連論文の執筆・学会発表へ向けて						
授業の概要	特に博士課程の院生にとって、学会発表（ポスター発表、口頭発表）を行うこと、そして論文執筆を行うことがきわめて重要であることは言うまでもない。この授業では、各自が抱える社会言語学・変異理論関連のトピックについて毎回発表を行ってもらい、論文執筆、学会発表を目標にした準備を行ってもらい、松田も現在進行中のテーマ・論文について発表を行い、受講者とディスカッションを行う。各々のトピックに対するディスカッション、そして発表や執筆途中の論文への参加者同士のフィードバックはもちろん、発表応募の書き方、実際の学会発表が決定した（している）場合にはその予行演習にも充てる。加えて、学期中に開催される諸学会での口頭発表について報告をしてもらい、受講生同士で批判を加え合う。実践的な面では、ハンドアウトの作成、PowerPointを始めとするパソコンを使用した発表の練習、質疑応答の模擬演習など、学会発表の訓練も行う予定である。参加者は、学会発表への実際の応募、または最低限、応募可能なレベルの原稿作成を義務づけられることになる。						
到達目標	博士論文執筆への準備に拍車を掛けること。						
授業計画	第1回 前期イントロ 第2回 発表で気をつけるべきこと 第3回 院生による現在の研究テーマ紹介 (1) 第4回 院生による現在のテーマ紹介 (2) 第5回 松田の現在の研究テーマに関する発表 1 (1) 第6回 松田の現在の研究テーマに関する発表 1 (2) 第7回 松田の現在の研究テーマに関する発表 1 (3) 第8回 学会報告 (1) 第9回 学会報告 (2) 第10回 文献紹介 1 第11回 文献紹介 2 第12回 文献紹介 3 第13回 院生による現在のテーマに関する発表 2 (1) 第14回 院生による現在のテーマに関する発表 2 (2) 第15回 前期まとめ 第16回 後期イントロ 第17回 松田の現在の研究テーマに関する発表 2 (1) 第18回 松田の現在の研究テーマに関する発表 2 (2) 第19回 松田の現在の研究テーマに関する発表 3 (3) 第20回 学会報告 (1) 第21回 学会報告 (2) 第22回 文献紹介 4 第23回 文献紹介 5 第24回 文献紹介 6 第25回 院生による現在のテーマに関する発表 4 (1) 第26回 院生による現在のテーマに関する発表 4 (2) 第27回 院生による現在のテーマに関する発表 4 (3) 第28回 松田の現在のテーマに関する発表 3 (1) 第29回 松田の現在のテーマに関する発表 3 (2) 第30回 後期まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	必ず積極的に授業に参加すること。						
授業方法	発表						
評価基準と評価方法	発表と最終レポートをそれぞれ50%ずつ評価失する。						

教科書	
参考書	

科目区分	【博士】言語科学専攻科目						
科目名	言語科学研究演習V						
担当教員	柏本 吉章						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～3	単位数	4.0
授業のテーマ	モダリティとその周辺						
授業の概要	モダリティを中心とした英語の動詞文法が表現する心理的意味について、各種の文献を講読しながら、その体系的な整理の可能性について考える。						
到達目標	(1) モダリティに関する各種概念に習熟し、英語のモダリティ表現を体系的に整理して示すことができる。 (2) 動詞文法による心理的表現機能を深く理解し、自らの視点を定めて議論することができる。						
授業計画	<p>第1回 前期Introduction: モダリティとその周辺</p> <p>第2回 Leechのモダリティ論 (1) 時間の表現との関係</p> <p>第3回 Leechのモダリティ論 (2) 未来表現との関係</p> <p>第4回 Leechのモダリティ論 (3) 心理的意味</p> <p>第5回 Leechのモダリティ論 (4) 対人関係的意味</p> <p>第6回 Leechのモダリティ論 (5) 仮定的意味</p> <p>第7回 テーマ発表とディスカッション</p> <p>第8回 Palmerのモダリティ論 (1) ムードとモダリティ</p> <p>第9回 Palmerのモダリティ論 (2) 仮定法の位置づけ</p> <p>第10回 Palmerのモダリティ論 (3) テンスとモダリティ</p> <p>第11回 Palmerのモダリティ論 (4) アスペクトモダリティ</p> <p>第12回 Palmerのモダリティ論 (5) 主観性</p> <p>第13回 Palmerのモダリティ論 (6) 発話行為とモダリティ</p> <p>第14回 テーマ発表とディスカッション</p> <p>第15回 前期のまとめとレポート作成指導</p> <p>第16回 後期Introduction: 英語のモダリティと日本語のモダリティ</p> <p>第17回 Huddlestonのモダリティ論 (1) 動詞の文法</p> <p>第18回 Huddlestonのモダリティ論 (2) テンスとモダリティ</p> <p>第19回 Huddlestonのモダリティ論 (3) 時間的意味と法的意味</p> <p>第20回 Huddlestonのモダリティ論 (4) モダリティと主観性</p> <p>第21回 Huddlestonのモダリティ論 (5) モダリティの強さ</p> <p>第22回 Huddlestonのモダリティ論 (6) 仮定法</p> <p>第23回 テーマ発表とディスカッション</p> <p>第24回 日英語のモダリティ (1) 主観性の表現</p> <p>第25回 日英語のモダリティ (2) モダリティと命題</p> <p>第26回 日英語のモダリティ (3) 副詞的表現</p> <p>第27回 日英語のモダリティ (4) 感情表現のモダリティ</p> <p>第28回 日英語のモダリティ (5) 仮定の表現</p> <p>第29回 テーマ発表とディスカッション</p> <p>第30回 後期のまとめとレポート作成指導</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	講読箇所の予習と参考文献による発展学習						
授業方法	論文の講読とそれに基づく発表およびディスカッション						
評価基準と評価方法	学期末のレポート成績 60%、授業での貢献度 40%						
教科書	プリント使用						

参考書	澤田治美 著『モダリティ』, 開拓社, 2006 Leech, Geoffrey, Meaning and the English Verb, Pearson Education, 2004
-----	--

科目区分	【博士】言語科学専攻科目						
科目名	言語科学研究演習VI						
担当教員	作井 恵子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～3	単位数	4.0
授業のテーマ	質的研究方法						
授業の概要	質的研究方法の代表的なものを学びそれを自分の研究に応用する						
到達目標	質的研究方法について理解する。 これに基づき簡単なリサーチを行う。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. What is research? 2. Qualitative research 3. Ethnography 4. Grounded theory 5. Case study 6. Life history 7. Paradigms 8. Presentation 1 9. Interviewing 10. Analysis of interview data 11. Interviewing and presentation 12. Observation 13. Analysis of observation data 14. Practical problems of observation 15. Interpretation: reliability and validity 16. Interpretation: Developing the model 17. Interpretation: Generalisability 18. Interpretation: Connecting with theory 19. Presentation 2 20. Planning a project 21. The personal project 22. Resources for project planning 23. Analysis 24. Independent study 1 25. Independent study 2 26. Independent study 3 27. Independent study 4 28. Independent study 5 29. Presentation 3 30. Final exam 						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の研究テーマの先行研究						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	プレゼンテーション60%、リサーチペーパー60%						
教科書	Richard, K. (2003). Qualitative Inquiry in TESOL. Palgrave						

参考書	
-----	--